



## ～「C型慢性肝炎」の治療前の検査と治療後の流れについて～

### 当院の肝臓内科

国立病院機構 岩国医療センターが2013年4月に愛宕山に移転した時に、かかりつけの先生方から効率よくご紹介頂き、精査を進めていく必要から、内科部門の再編・専門分野を明瞭にする課題が起きました。肝臓内科は特に消化器の中で消化管・胆膵分野と関連性があるものの、異なる特徴が多くあるため、改めて分離・独立することになりました。

食道静脈瘤の治療など肝臓病に関連した疾患については、これまで通り消化器内科とも協力しながら肝臓の精査・治療を行っております。

### 経口抗ウイルス薬による、C型慢性肝炎の治療について

#### ● インターフェロンを含む治療

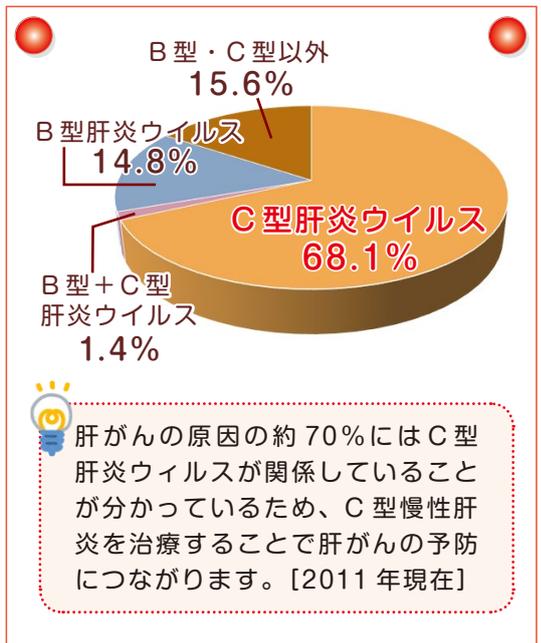
慢性肝炎の約7割を占め、肝臓癌を起こしうる「C型慢性肝炎」は、これまでも社会問題になっておりました。従来のC型慢性肝炎の治療は、インターフェロンを含む治療ではC型肝炎ウイルス(HCV)の除去の成功率も経年的に高くはなっておりましたが、発熱・発疹など頻度が多く入院が必要な治療であったため、治療を受ける患者さんには大変負担の大きいものでした。

#### ● 経口抗ウイルス薬治療

近年テレビ・ラジオなどでも“内服で治療が行える”C型慢性肝炎の話題が盛んになってきており、当院では2014年秋より最初の経口抗ウイルス薬治療を開始し現在も治療を行っております。経口抗ウイルス薬は、インターフェロンを含む治療とは異なり、発熱などの副作用が非常に少ないため、治療を受ける患者さんの負担は少なくなってきております。

また年々抗ウイルス薬の種類も増え、治療効果も高く副作用の発生頻度も低くなり、より安全性が高く“外来で行える”治療となっており、また治療効果は約90%以上のHCV除去の成功が見込まれております。

しかし一方、経口抗ウイルス薬には、飲み合わせが許されない薬も幾種類あります。また全身状態が不良な方は経口抗ウイルス薬の代謝の面から考えて、治療が難しいと判断される患者さんもいます。



肝がんの原因の約70%にはC型肝炎ウイルスが関係していることが分かっているため、C型肝炎を治療することで肝がんの予防につながります。[2011年現在]

【肝がんの原因】

HCV…C型肝炎ウイルス



【C型肝炎ウイルス持続感染者(キャリア)数】

## 当科での取り組み～C型慢性肝炎の治療方針について

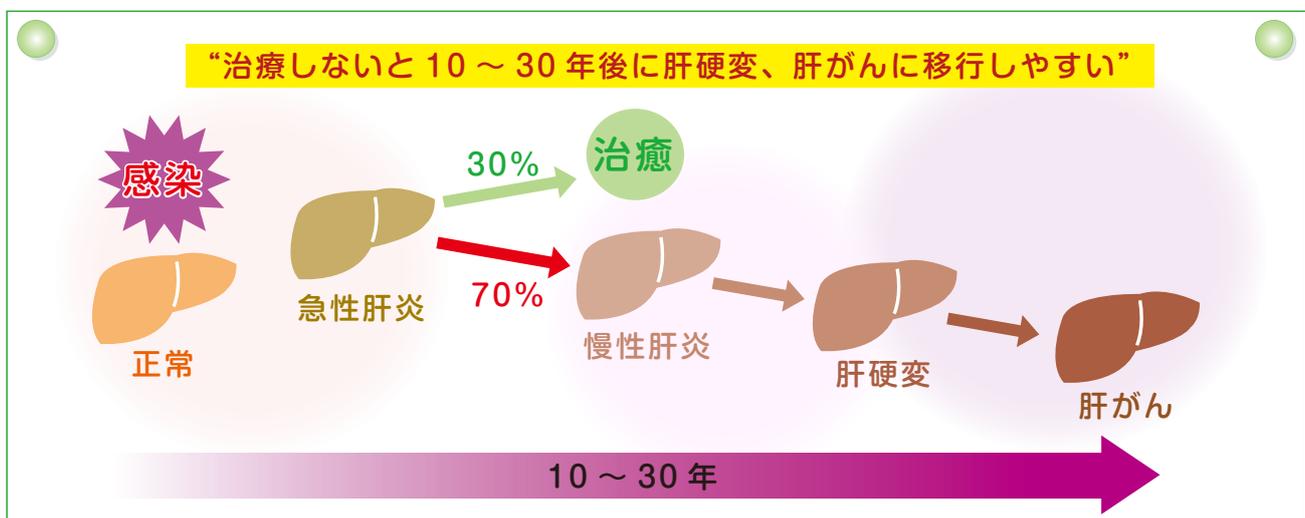
当院は「がん診療拠点病院」の側面もあります。当科としては、ただC型慢性肝炎のHCV除去のみを目指すのではなく、この治療の前に検査を行い、肝臓癌や他の臓器癌を除外することも留意しております。もし癌が見つかった場合は、その癌の治療が優先される事はいうまでもありません。

また、この検査の間に（経口抗ウイルス薬治療を開始した後の）医療費の負担を軽減するためにも肝炎助成金制度※について患者さんやそのご家族にも説明し、申請をお願いしております。肝炎助成金の認可が下りれば、治療開始の日程が決まります。

※肝炎助成金制度…C型肝炎の抗ウイルス治療は医療機関への受診後、申請を行うことで医療費の助成を受けられます。

## 治療開始直前の検査～肝生検について

従来のインターフェロンを含む治療の時の反省点として、「HCVが除去できれば、C型肝炎は治癒した」と考えられていたことです。インターフェロンを含む治療でHCV除去に成功しても、数年～10数年後に肝臓癌が発生した患者さんの報告が散見されます。肝臓癌を起こした患者さんの肝臓が、肝硬変に近いものであればあるほど（たとえHCVの除去に成功しても）将来肝臓癌を起こす可能性が高くなることが推測されています。このことから、経口抗ウイルス薬治療を行う直前に、2泊3日のエコー下肝生検入院をお勧めしております。



【C型慢性肝炎の自然経過】

## 経口抗ウイルス薬治療中とその後の追跡

経口抗ウイルス薬治療は外来で開始します。安全性が高いと先ほども申し上げましたが、この数年で複数の経口抗ウイルス薬が発表され、それぞれの長所も魅力があるのですが短所としての副作用の発生頻度についてはまだ十分な検討ができていないとは言えません。このため、副作用をできるだけ早期に確認するためにも治療中は患者さんに1～2週間隔での外来受診をお願いしております。

内服治療が終了した後は、治療終了1・2・3・6・12か月後に受診していただき、HCVの除去ができたかどうかを確認します。治療終了後12か月経過し、HCVが除去できた場合は、ご紹介いただいた医療機関に患者さんをお返しし、その後6～12か月に1回の画像検査についてのご相談をさせていただきます。

## 終わりに

C型慢性肝炎の撲滅は経口抗ウイルス薬によって急速に進んでいるものと思われます。しかし経口抗ウイルス薬治療後の肝臓癌や多臓器癌の発生については、いまだ議論が継続し明確な結論が出ておりません。

治療だけでなく、治療後の患者さんの肝発癌の危険性を減らし、不幸にも発癌しても早期に癌治療が行えるようにするためにも、ご紹介頂いた関係医療機関の諸先生方にもご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

